

刊行にあたって

(財)日本教育会館は1999年、公益文化事業の一環として教育労働運動史研究会(文化講演会)を発足させ、教育労働運動に携わった人々、広く教育労働運動に関心のある方々にも参加を呼びかけながら、定期的に研究会を重ねてまいりました。

昨年6月、日本教職員組合は(財)日本教育会館建設30周年と合同で結成60周年記念のレセプションを開催するとともに、これまでの運動のあゆみをまとめた組合史『日教組60年』を刊行しました。一方また、日教組がその中核を担い、戦後労働運動に大きな足跡を残した日本労働組合総評議会(総評)が発展的に解消され、新たに日本労働組合総連合会(連合)が結成されて、やがて20年を迎えようとしています。

日教組や総評、連合の運動のあゆみは、今日までに公刊されたそれぞれの組合史に譲りますが、本研究会では、こうした正史には著わされてこなかった歴史的事実、秘話などにも焦点をあて、日教組の結成から総評への加盟、朝鮮戦争の勃発といわゆる「逆コース」と呼ばれた時期の平和闘争と厳しいたたかひの足跡、勤評・学テ闘争を経て、中教審・臨教審路線への対応、女性教員のあゆみなどさまざまな問題をテーマに検証、論議を深めてまいりました。

発足時、講師として本研究会に参加された方は渡久山長輝館長(当時)を中心に上田八良さん、小谷喜富さん、中垣貞雄さん、水野秋さん、矢倉久泰さん、山下正彦さんですが、渡久山館長が退任されたあとは西澤清さん、池田芳江さんに引き継がれ今日を迎えました。この間、講師として榎枝元文、大場昭寿元委員長をお招きし、当事者の立場から日教組の賃金闘争、労戦統一問題と連合への加盟など「生きた日教組運動への証言」とも言える貴重なご講演をいただいたこともありました。

本年表は、こうしたテーマをもとに数十回にわたって検証、論議された問題に関連し、欠かせないと思われる事項を整理、年表としてまとめたものです。研究会のまとめとしては先に刊行された『教職員給与制度の変遷とたたかひ』(2008年3月刊)に続くもので、本研究会を締め括るものです。

なお、本年表の草稿は、2003年より研究会の事務を担当された教育図書館の横川敏晃さんに作成を依頼し、本研究会で精査したものです。

これまで、本研究会に参加され、講師としてそのつどご講演いただいた方々に心より感謝申し上げますとともに、本年表が教育に関心のある方々をはじめ、教育労働運動に取り組まれている多くの方々の活用に供することを期待いたします。

2008年8月

(財)日本教育会館 館長 島 修身